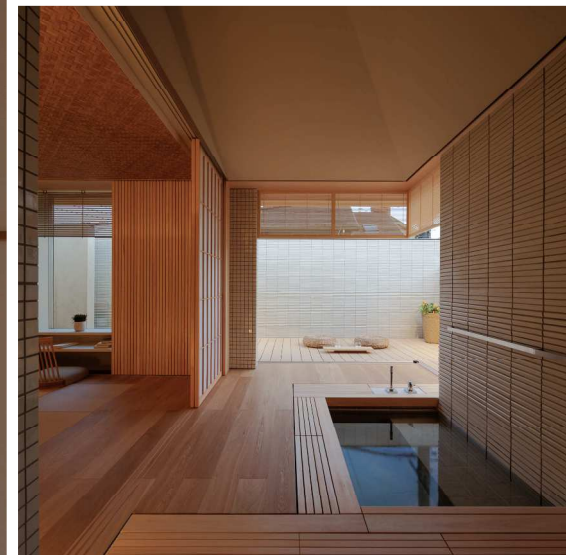




## キナリノイエ — 木質の加工性と風合を活かす内装材としての可能性



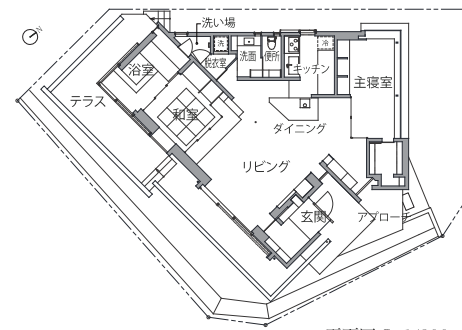
### 木質空間の次への展望

建築における木材は技術が飛躍的に向上し、大架構・不燃性・高層化が大きく取り上げられている。住宅においてもプレカット技術の確立により短工期を実現し、建築界にとって発展性の高い素材となっている。また、木材は加工のしやすさを生かした豊富な建材や人に癒しを与える風合いや温かさといった特性を持っている。しかし、近年では均質な工業化建材やプリント技術の向上により、活躍の場を奪われ、木材の持つ豊かな特性が感じにくくなっている。

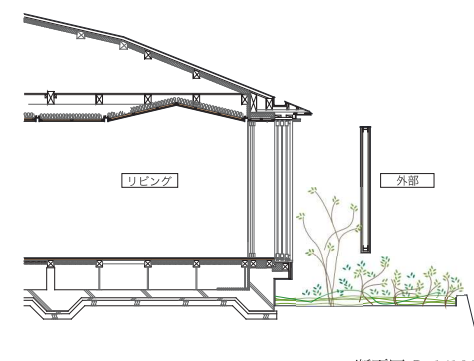
そこで元来、日本の空間が持ち合わせていた木材による美意識を感じさせる空間を創造することで、価値の再認識や木質空間がより一層、普及する可能性を示したいと考えた。本計画では「彫る」「削る」「編む」「組む」「連ねる」「混ぜる」の加工を施した様々な木質材を使用している。木の持つやわらかく表情豊かな陰影が、空間に多様なグラデーションを創り出している。

NC ルーター等の現代の加工技術により、掘深い浮造材や組子の生産性は向上し続け、安価に空間に取り入れられるようになってきている。古来の伝統技術と現代の加工技術を掛け合わせた木質材を数多く使用することで新たな木質空間への展望を導き出したのではないと思う。

### —多様な加工性—



平面図 S=1/200



断面図 S=1/100



生活のシーンに合わせて、各個室に設けた間仕切りを開閉することで、大空間にも小空間にもなりえるフレキシブルな空間を創り出している。視線の先にはテラスや植栽、遠方の借景を配置し、広がりのある空間を演出している。庭の木(植栽)や、天井面に配した表情の美しいキナリの木(素材)を外部アプローチの軒裏まで延長するなど、**街に対して**木の柔らかさや温かみを提供することで、「木」を通して豊かな環境・社会づくりに寄与している。